概　報

553.311.068：551.796：551.89（521.29）：550.822＋550.85

千葉県飯岡地区における沖積層の基盤にみられる古地形と砂鉄の堆積について

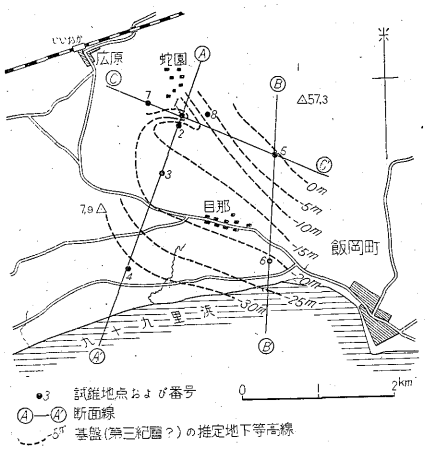
服　部　富　雄*

1. まえがき

昭和33年2月，千葉県海上郡飯岡町付近に発達する内浜型海岸砂鉄鉱床調査の一環として，伊藤吉助・山田隆基が試錐作業を行なつた。これは未固結の砂層に対するCoringの試験研究を目的とするものであつたが，深度10～35mの試錐孔10本のうち，本地区の沖積層の基盤をなす頁岩ないし砂質頁岩に到達するもの7本を数えた。これを検討した結果，基盤の古地形について，若干，興味ある事実を認めたので，ここに報告する。

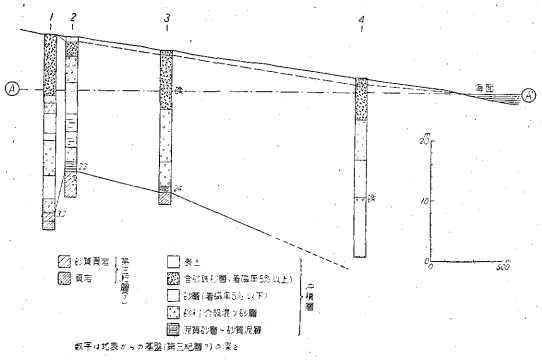
2. 沖積層基盤の古地形と沖積層の堆積

第1図に試錐位置および試錐結果からみちびいた基盤の古地形を，また第2図に柱状断面図を示す。試錐位置



第1図　試錐位置および基盤地形図

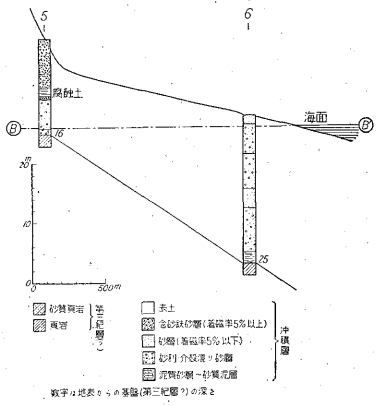
の選定にあたつては，なるべく断面図作製に都合よく，一線上に並ぶように配慮されたが，測量を伴なわなかつたので，断面図の作製には5万分の1地形図による概略の断面が得られたにすぎなかつた。しかしコーアの採取率もよく，沖積砂と基盤の頁岩ないし砂質頁岩(第三紀，三浦層群？）との区別は明らかで，だいたいの傾向を知



第2図a

るには，この程度で充分であると思われる。

基盤の地形は，図にみるように，A—A′およびB—B′断面に沿つては山側より海側へゆるく傾斜するが，試錐地点1の付近には東から西にひらく小谷の存在が認められる。

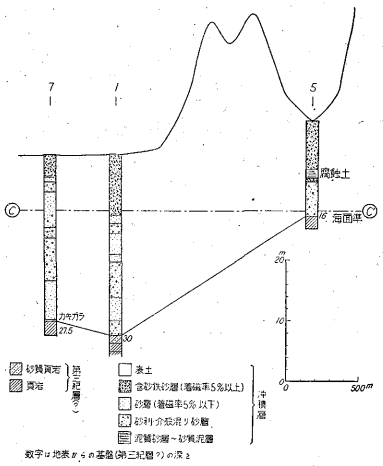


第2図b

A—A′断面に沿う基盤地形面の傾斜は約1°あまりで，B—B′断面に沿う傾斜は約6°である。試錐2，3および6において基盤上にのる沖積層が厚さ1～2mの青色泥であることも，この間の事情をものがたるものであろう。

これとは対照的に，試錐7では基盤の上に厚さ約0.5mのカキガラに富む泥層がのり，また試錐1および8

* 鉱床部



第 2 図 c

（柱状図省略）では頁岩の小塊を含む貝殻混り砂層が堆積している。

砂鉄に富む（着磁率 5 %以上）砂層は，沖積層の中～上部に限られ，とくに試錐 5 において，砂鉄に富む砂層と砂鉄に乏しい砂層との境界付近に，厚さ 1.5m の腐蝕土をみることは，この腐蝕土をも含めて，沖積層中上部の含砂鉄砂層は，基盤の地形には影響されず，むしろ現在の地形に近い環境で堆積したと考えられるのである。

3. むすび

千葉県飯岡地区は，わが国有数の砂鉄鉱床地帯であり，この地区の沖積層表層部に関する砂鉄の調査は，過去数年間にわたり実施されてきた。こゝでは，詳細な資料は別として基盤に達する若干の試錐結果に基づいて考察を試みた次第である。資料が少なく，また精度が粗雑であるきらいはまぬがれないが，砂鉄の堆積環境に関する資料の 1 つとしておゝかたの参考になれば幸せである。なお資料の整理にあたり，一部，東京通産局江見正民技官の御協力を得た。記して感謝の意を表する。

（昭和 33 年 2 月調査）